



＜来週の資金需給予想とイベント予定＞

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/27 (月)	+ 100	+ 1,200	+ 1,300	国庫短期証券発行償還 (3M)	CP等買入 -1000 社債等買入 -200 国債補充供給 900		日：トランプ米大統領来日 (29日まで) 米：耐久財受注 (9月)
10/28 (火)	トン	▲ 6,000	▲ 6,000				米：FOMC (1日目) ：消費者信頼感指数 (10月)
10/29 (水)	トン	▲ 3,000	▲ 3,000		共通担保資金供給 8,000		日：金融政策決定会合 (1日目) ：消費者態度指数 (10月) 米：FOMC (2日目)
10/30 (木)	トン	▲ 4,000	▲ 4,000				日：金融政策決定会合 (2日目) 米：GDP (3Q、速報値) 欧：ECB、政策金利発表/ラガルド総裁記者会見 ：GDP (3Q、速報値) ：失業率 (9月) ：消費者信頼感指数 (10月)
10/31 (金)	▲ 200	▲ 7,100	▲ 7,300				日：失業率 (9月) ：住宅着工件数 (9月) 米：個人消費支出 (9月) 欧：CPI (10月)

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比8,200億円減少し、496兆5,900億円から始まった。その後、国債発行等の要因により増減し、10月24日は498兆3,100億円（速報）で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.477%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物0.470%～0.610%のレンジ、1M～3M物0.620～0.630%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、10月27日にトランプ米大統領来日、29日と30日に金融政策決定会合、31日に失業率（9月）の公表、海外では28日と29日にFOMC、30日にECBによる政策金利発表とラガルド総裁の記者会見、米・欧のGDP（3Q、速報値）の公表などがある。

〔無担保コールレート〕

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ～ 0.478
1M	0.55 ～ 0.65
2M	0.60 ～ 0.65
3M	0.62 ～ 0.70
6M	0.70 ～ 0.85

＜レポ＞

足許GCはお通して+0.495%～+0.50%の狭いレンジで取引された。買い入れオペのあった22日や、短国の発行があった24日の取引も水準に変化は見られなかった。

SC取引は2年470～477回債、5年155～180回債、10年355～371、378～379回債、20年110～130回債などに引合いが見られた。

〔オープン市場〕

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.60 ～ 0.75

＜CP＞

今週の入札発行総額は約1兆2,900億円で、週間償還額の1兆1,200億円を上回った。発行残高は、先週末時点の23兆8,371億円から、10月23日時点で23兆9,413億円へと増加した。発行市場では、小売業・鉱業・卸売業・石油業をはじめとする幅広い業種で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.50%台後半、3か月物で0.70%台を中心に、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は2兆5,000億円となっている。発行市場は、月末には複数の大型案件の償還が控えており、それに伴う相応のロールが見込まれることから、活況なマーケットが予想される。発行レートについては、10月29日・30日に開催される金融政策決定会合に対する警戒感から、引き続き水準を見極める展開が予想される。

＜TDB＞

10月24日の3M（1340回債）の入札は、最高落札利回り0.5016%（前回債0.4680%）、平均落札利回り0.4945%（前回債0.4571%）となった。来週の入札は31日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。